

つながりの中でくらす
生まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 71

2022年1月発行

〒535-0021 大阪市旭区清水 2-16-22 TEL06-6953-2665 fax06-6953-2655 E-mail houpu@r.river.sannet.ne.jp

— も く じ —

放課後等デイサービス 楽童ほうぷ リニューアルオープン記念 NEWほうぷ探検隊	2～3
楽童ほうぷ活動報告	4～6
地域活動報告	7

本年もどうぞよろしくお願いたします。

今年が、みなさんにとって良い年となりますように！

～ ワハハと笑って障害児の母を ～

1996年に「わ・はは」という小さな冊子が創刊されました。関西在住の障害児の母たち5人が集まり、「ワハハと笑いながら障害児の母の輪をひろげよう」と、母たちの想いを綴ってきました。近年は、春にランチをしながら編集会議、夏に原稿め切、秋に編集、冬に発行とゆっくりペースで発行し続けてきました。私は、第2号と3号に寄稿し、第6号から編集メンバーとなりました。「私たちは、障害児の母であると同時にひとりの人間であり女性です。障害児を育てながら自分も育てたい、自分の人生も大切にしたいと思っています。障害児と共に生きる生活を楽しみながら、一度しかない人生を豊かに生きたいと願っています。」と、「わ・はは」の表紙裏に書いてあります。「わ・はは」の母たちは、たくましくしなやかで、編集会議の度にパワーをもらいました。完成した冊子を読むたびに、娘も自分も、自分らしく生きていくとはどういうことかを考えさせられました。

昨年はコロナ禍で編集会議ができず休刊しました。12月に新ほうぷで編集会議を開き、今年が最後の発行とすることを決めました。書き手も読み手も高齢化しました。けれど、若い障害児の親たちが、先輩たちのその歩みから、パワーを受け取ってくだされば幸いと、「わ・はは」に育てられた私は思っています。

NPO 法人地域生活サポートネットほうぷ 向井裕子



NEW ほうぷ 探検隊



これが噂の「ほうぷ」ですね！
さっそく入ってみましょう。



隊長！丸太の
手作り看板ですよ！



カラフルで楽しい
気分になるね。



玄関にたどり着く
までに広いスペースが
ありますよ。



「ひだまりテラス」というらしいぞ。
昔の「縁側」みたいだなあ。



木のふたで覆われていたのは、
土遊びエリアだったんですね！
久しぶりに泥だんご作りたい♪



隊長！エレベータの左右に通路が
あります。右側には部屋もありますよ！

ふむ。まずは右側の部屋を探ってみよう。



わあ、広～い！木がふんだんに使われ
ていて、あたたかみを感じますね。



広々とした空間で、思いっきり遊べますね！





台所も広いですね！楽しくクッキングできそうです。



窓側のエリアはふすままで仕切ると小さな部屋になるんですね。落ち着く～



すみっこの本棚エリアに惹かれる…。



隊長！はしごを登ってみます！



隊長！「かくれが」です！寝転べるぐらいのスペースがあります！

ランチの後の昼寝に最適じゃないか！



エレベーター右側通路の突きあたりには、「おおきなトイレ」があります。介助もしやすい、安心のバリアフリー設計ですね♪



建物の一番奥に、相談室があるのか。周りを気にせず落ち着いて話せる環境が整えられているなあ。



隊長！相談室を出たところにも、「かくれが」があります！これは完全に「秘密基地」です！



向かいの壁に本棚まであるじゃないか！完璧だ…。この「かくれが」にこもりたい…。



隊長！また「ほうぶ」に遊びに来ましょう！

私もすっかり、子どもに戻って楽しんでしまったよ。また来よう！



放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

およそ1年半にわたる準備・建築期間を経て、11月24日（水）から心機一転、新築の拠点で「楽童ほうぷ」の活動を再開しました。

新拠点が完成するまでの10か月間は、建て替え前よりも手狭な環境で活動しなければならず、子どもたちも窮屈な思いをしてきたと思います。ご家族の皆さんには、感染拡大の波が幾度も押し寄せるたびに、ご心配をおかけしてきました。それでも、スタッフの日頃からの感染対策に加えて、子どもたちもそれぞれができるかぎりの努力や我慢をしながら、クラスターの発生を招くことなく、この大変な局面を乗り切ることができました。

建設工事の過程でも、近隣住民の皆さんには工事車両の出入りや物資の運搬、騒音等たびたびご迷惑をおかけしてきました。それにもかかわらず、事あるごとに物心両面でさまざまなお心遣いをいただきました。全国各地のご縁ある方々からもたくさんのご支援をいただきました。いくら感謝しても足りません。子どもたちが「つながりの中で暮らす」ことができる場を開いていきたいと、活動を続けてきましたが、私たち自身もまた、様々なつながりに日々見守られ、助けられ、生かされているという事実改めて気づかされています。



仮事務所の最終日に記念撮影。横断幕には、「うるさくしてごめんね楽しかったよ!」との直筆メッセージ。

一緒にがんばってくれた子どもたち、日々ご協力いただいているご家族の方々、そして地域の皆さんへの感謝の気持ちを込めて、12月4日（土）に、声楽家の伊原木幸馬さん・米山茉莉子さんのお二方をお招きして「楽童ほうぷリニューアル記念コンサート」を開催しました。屋内の換気徹底、ステージと客席との距離の確保などの感染対策の実施に加えて、建て替え当初からの構想をもとに設置した「ひだまりテラス」に屋外席も用意し、さっそく、地域交流の場として活用しました。いつもは落ち着いて座っているのが苦手な子どもたちもプロの歌声に聞き惚れ、感動で涙をぬぐう方もおられました。

年の瀬にさしかかる中で、新たな変異株の市中感染も報じられており、コロナ禍終息の目途はいまだ立っていません。それでも、この1年半、未曾有の状況下での試行錯誤を重ねてきて、このたびのコンサートのように、個別具体の状況に応じて必要な感染対策を講じながら、人と人が出会い、交わり、つながり合うための模索を続けていくことはできると信じています。

この旭区清水の地に根ざして、誰もが「つながりの中で暮らす」ことのできる地域づくりにささやかながらも寄与していきたい。そして、子どもたちも地域住民の一人として自分の個性を発揮して地域づくりに参画していける未来をとともに描いていきたい。その決意を新たにしています。



リニューアル記念コンサートの様子

大学生ボランティアによる音楽会

学 遊

2021年11月13日(土) 参加者：子ども11名 ボランティア4名

2021年12月18日(土) 参加者：子ども11名 ボランティア4名

感染状況が落ち着いてきており、2カ月連続で、武庫川女子大学の大学生ボランティアによる音楽会を開催することができました。コロナ禍以前のように、月1回の頻度で継続開催ができるようになってきたのはとても嬉しいことです。大学生の皆さんも、子どもたちに楽しんでもらいたいと、毎回、熱心に企画を練って臨んでくれます。

11月は、「おぼけなんてないさ」の「さ」のタイミングで楽器を鳴らすリズム遊びや、スーパーマリオのテーマの演奏に合わせて、コインゲットの効果音でガッツポーズをしたり、流行曲の生演奏を聴いたり、バラエティに富んだプログラムでした。12月は、ピアノ伴奏に合わせてぬいぐるみを回していく(伴奏曲が変わると逆順に回す)遊びをしたり、ふだん触る機会の少ない楽器を鳴らしてみたりして楽しみました。



秋のピクニック

遊

2021年11月13日(土) 参加者：子ども11名 ボランティア5名

本格的な寒さが到来する前に、秋を楽しむひとときとして、午前～昼過ぎにかけて、ピクニックに出かけました。大阪経済大学ボランティア部の有志も参加してくれました。行き先は、のんびり歩いて30分くらいの場所にある太子橋中公園です。遊具も広場も充実しています。

お昼ごはんの時間までは、シャボン玉を飛ばしたり、ピラミッド型のロープアスレチックで頂上を目指したり、キャッチボールをしたり、もみじ狩り散歩をしたり、どんぐり拾いをしたり…と、子どもたちはそれぞれのペースで、それぞれの楽しみ方で過ごしました。



新ほうぶ看板製作

遊

2021年11月27日(土) 参加者：子ども12名

11月の創作プログラムとして、新ほうぶの看板製作を行いました。大工さんからご提供いただいた丸太スライスの断面に、「ほ」「う」「ぶ」の型紙にあわせてステンシルの手法で色付けしました。型紙は、いずれも、ほうぶが誇る筆自慢の高校生メンバーに、あらかじめ書いてもらった字をくりぬいたものです。どのメンバーも興味津々で、晴れ渡った青空のもと、色付けに精を出していました。

その後、防水塗装や骨組み設計などを行い、12月4日(土)のリニューアル記念コンサートに間に合うように完成させ、道沿いに設置しました。手作り看板も、子どもたちが道端で遊ぶ姿も、この街のあたりまえの風景の一つになっていくことを願っています。



ミニクリスマスツリーを作ろう

住 遊

2021年12月11日（土） 参加者：子ども9名（+飛び入りの地元の小学生2名）

12月の創作プログラムは、秋の終わりに拾った松ぼっくりを素材に、ミニクリスマスツリーを作りました。デコレーション用のパーツを選んで、木工ボンドで松ぼっくりの周囲に貼り付けていきました。細かい作業で集中力が求められますが、根気強く取り組み、手のひらサイズのかわいいツリーが完成しました。

この日は午後から、地元の小学生が訪ねてきて、直前まで公園で一緒に遊んだあと、2名がツリーづくりも「やりたい！」と興味を持ち、参加してくれました。地域に根ざした、誰にでも開かれた場でありたいと願って活動している私たちにとって、嬉しい出来事でした。



ほうぶクリスマス会

学 遊

2021年12月25日（土） 参加者：子ども14名

今年は子どもたちのネーミングで「クリスマス会スペシャル！」と銘打ち、第1部：ほうぶメンバー有志による演目発表、第2部：金蘭フィルハーモニー（千里金蘭大学吹奏楽部）によるクリスマスコンサート、というプログラム構成で実施しました。

演目発表では、アニメ動画に始まり、漫才、ダンス、歌唱、クイズ、創作劇など、メンバー有志による多彩な表現に、観客席のメンバーからは拍手がわきおこりました。コンサートでは、クリスマスメドレー、ジブリメドレー、有名アニメソングなど、迫力満点の演奏が披露されました。

コンサートも終了、クリスマス会もこれで終わりか…と思いきや、サプライズゲストとしてサンタクロースが登場！ ケーキのプレゼントを持ってきてくれました。最後に記念撮影もでき、本当に「スペシャル！」な1日になりました。



年末大掃除&おたのしみ会

住 働 遊

2021年12月28日（土） 参加者：子ども13名 ボランティア2名

クリスマス会に続き、毎年恒例の年末イベントである大掃除&おたのしみ会を実施しました。年の瀬の忙しい時期ですが、大阪経済大学ボランティア部の学生有志も参加してくれました。

大掃除は、自分たちの生活の場を、自分たちで整えることに意識を向けてもらおう趣旨で取り組んでいます。グループ分けし、それぞれ担当エリアを決めて、手がかじかむ水仕事をがんばりました。

大掃除をがんばった後は、お待ちかねのおたのしみ会！ 大学生企画のボードゲームを楽しんでから、おやつのはさんで、在庫のお宝一斉大放出のビンゴゲームで2021年を締めくくりました。



●地域活動報告●

- 1 1月17日(水) 旭区地域自立支援協議会本会定例会&和んで座談会実行委員会
- 1 1月19日(金) 旭区地域自立支援協議会 こども部会
- 1 2月 3日(金) あさひの輪(旭区子育て支援団体の集まり) 定例会
- 1 2月 4日(土) 旭区地域自立支援協議会 総会&和んで座談会
- 1 2月15日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談支援部会

旭区地域自立支援協議会 総会 & 和んで座談会

2021年12月4日(土) 旭区民センター 大ホール

12月4日(土曜日)に、旭区地域自立支援協議会の総会と「和んで座談会」が開催されました。総会と和んで座談会は、一昨年に開催予定だったのですが、コロナ感染症の緊急事態宣言の発令により2回も延期になっていました。総会では、基調提案があり、相談支援部会、こども部会、仕事部会、高齢・障がい部会、それぞれから報告がありました。

「和んで座談会」は、大阪市旭区の地域福祉計画「アクションプラン」から2005年に始まり、旭区社会福祉協議会が事務局となり区民が中心となって開催してきました。長らく休会となっていたのですが、3年前に旭区地域自立支援協議会主催のイベントとして、再スタートをしました。障害のある人やその家族及び支援者が集い、意見交換や情報交換を通じて交流し、障がいのある人に対する理解や多様性を尊重し、理解しあえる環境づくりの一環として開催しています。

今回は再スタートから2回目。前回のテーマを引き継ぎ、「災害が起きたらどないしょ?! ~皆で考えよう障がいがある人の身近な防災~」でした。多くの地域住民に参加してほしい一方で、コロナ感染症拡大防止の観点から、多くの人が集うことへの不安もありました。今回は、総会後の協議会委員や、チラシや区報を見て事前申し込みのあった地域住民、計48名(事務局区職員6人含む)が7グループに分かれて意見交換をしました。また、区内の日中系の福祉サービス事業所による物販と、区内の福祉サービス事業所のチラシを並べて情報提供も行いました。

グループでの意見交換では、「避難所に避難した時、不安に感じること・疑問・必要な設備や物など」について意見を出し合いました。「知らない人ばかりの中で精神的に不安」「大きな声を出したり、ウロウロしたりしたら、周囲の目が気になる」「体温調整が難しい人は、室温が心配」「トイレや着替えの場所、衛生面が心配」「音に敏感なので不安」「避難所に何をもって避難したらいい?」「食料以外に、オムツや毛布、トイレトーパーやティッシュなどの消耗品はある?」「校庭で避難ができるようテントや駐車場が欲しい」「落ち着くことができる(一人になれる)場所が欲しい」「避難所運営をする方々が高齢化していると思うが大丈夫?」「身体的・精神的に困った時に相談できる人がいる?」「医療との連携はどうなってるの?」

「障害のある人の誘導や情報提供の整備や体制が必要」「避難指示マップのようなものが欲しい」「福祉避難所ってどこにあるの?」等等、たくさんのご意見がありました。



いただいたご意見を旭区自立支援協議会の防災の取り組みに役立てていきたいと思っております。

<https://www.city.osaka.lg.jp/asahi/page/0000552606.html> (旭区のHPにも掲載中)

新しい建物に引越しをしたと思ったら、もう新年です。仮事業所で過ごした10か月間は、長いようで短かったです。仮事務所のマンションの隣室の高齢男性が、「もう出ていくんか?」と言って下さり、頭が下がる思いでした。あちこちで温かく見守られ支えられて活動していることを感じます。ひたすら突っ走った2021年でした。今年、ほうぶの再スタート元年と思い、初心にかえり、福祉サービスだけにとどまらない活動をこれまで以上に検討していきます。みなさまのご希望やご要望をぜひお知らせください。お待ちしております。

厳しい寒さが続きます。コロナ感染もまた広がってきています。
みなさま、くれぐれもご自愛ください。今年がよい年になりますように!

